

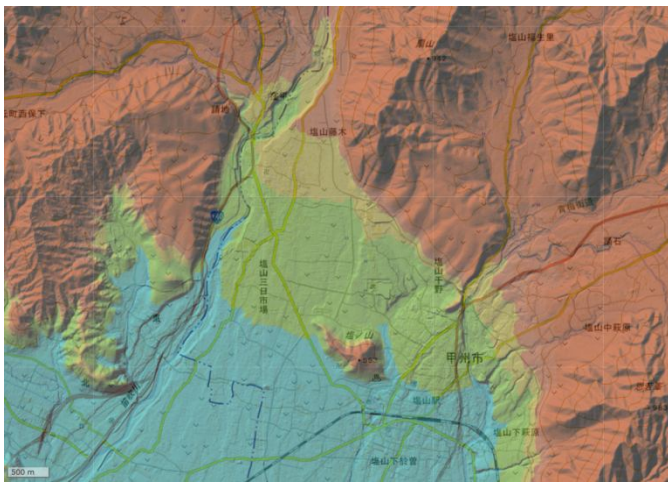
「中央本線の車窓(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

中央本線の下り列車に乗って、甲府盆地の東縁にさしかかると、塩山の市街地と、その手前にある「塩ノ山」が見えてくる。列車が走っていることを利用してこの山の「立体視写真」を作ってみた(次ページに拡大あり)。立体視で見ると、平地の真ん中に、ポツンと存在する塩ノ山の様子がよくわかる。こんな変な山は見たこともない。この山は一体何者だろうか？



塩山(甲州市の一部)付近の色別標高図を作成すると、塩山の市街地は笛吹川とその支流によって形成された複合扇状地であることがわかる。その扇状地の末端付近に塩ノ山がある。標高図で見ると、塩ノ山は完全な独立峰で、周囲の地形とのつながりは感じられない。中央本線の車窓から見た塩ノ山の形状は台形に近く、阿蘇の「米塚」、富士の「大室山」、浅間の「小浅間山」に似ている。いずれも大きな火山に付属する「寄生火山」と呼ばれるものだ。



上写真が浅間山の寄生火山の「小浅間山」である。きれいな台形をしていて、中央本線から見た塩ノ山とよく似ている。小浅間山が均整のとれた台形をしているのは、噴火堆積してからまだ時代が浅く、侵食がほとんど進行していないからだ。



しかし、塩ノ山の地形図(等高線)を見ると、山頂を中心に侵食谷が何本もあり、東西に長細い形状になっている。台形に見えたのは、たまたま南東方向からそう見ただけで、南西側から見ると、もっと尖った山容に見えそうだ。火山とは関係なさそうだ。しかし一方で、山麓に「塩山温泉」という表記がある。となると、塩ノ山も「古い火山」とも考えたい。まずは、「塩ノ山」の名称の由来を調べてみたくなった。



交差法 平行法



┌ 交差法 ─┐



┌ 平行法 ─┐